

伝え合う力ー自分の考えを広め、深めることができる児童の育成

I 研究の内容

1 研究目標

自分の考えを発表したり、子ども同士で伝え合ったりする活動を通すことにより、自分の考えを広め、深める児童を育成する。

2 研究の内容

(1) 単元指導計画の工夫

- ①「伝え合う力」を育てる単元指導計画の見直し
- ②興味・関心をもたせる素材や活動の工夫
- ③研究授業及び一人一実践の取り組み
- ④特別支援教育についての学習

(2) 一単位時間の学習過程の工夫と改善

- ①目的意識・相手意識を高めるための工夫
- ②学習過程の工夫・伝え合う場の設定
- ③評価の観点の明確化と評価カードの工夫

(3) 望ましい学習集団の形成

- ①学習規律づくり
- ②学級活動・道徳の時間の充実

(4) ミニ講座・日常的な言語活動の充実

ミニ講座→日々取り組んでいることを先生達に伝え、実践に役立ててもらおう。

- ①挨拶・返事の励行 スピーチ活動 日記の習慣化 詩や名文等の暗唱 等
- ②読書活動の推進（朝読書の充実 意図的な読書指導の工夫 等）

3 授業実践

- 第2学年 国語「スイミー」～スイミーの気持ちになって考えよう～ 三澤美穂
- 第4学年 算数「面積のはかり方と表し方」 高野 栄子
- ひばり学級「大根を育てておでんにしよう」 中村しげみ

II 成果と課題

1 成果

- ・ 継続研究の良さを感じた。今までの研究が生きている。他教科へと広めたことも教師自身新鮮さがあつたり、深まりがもてたりして良かった。
- ・ 言語活動について、国語以外の教科で研究することができたことは、大変意義があつた。

- ・ 授業中の場面だけでなく、集会・児童会活動などの場面でも子どもたちの伝え合うスキルが上がった。
- ・ 授業を行うことで、教材についてみんなで深く考え、どのようにすると力がつくかなど研究できて良かった。
- ・ グループ討議の大切さが分かった。友だちと伝え合う言語活動を通して学ぶ姿が見られたと思う。能力の低い子にとってもとても良い支援になっていたと思う。
- ・ 子ども達が、話し合いの中で自分の考えを抵抗なく発表することができるようになってきた。
- ・ 子ども達の考えに寄り添い、研究を深めることができた。
- ・ 書くことで自分の考えを深め、自信を持って相手に伝えることができた。また、聞くことの指導を加えることで、相手の言いたいことを受け止めて考えられる子が増えてきた。
- ・ 自分の考えをまとめて発表するために、各々が課題に対して正面から向き合い、真剣に考えることができた。また、何を考えて良いか分からない子どもは、友達の考えを聞きながら、考える方法が分かったのではないかと思う。
- ・ 他人に分かるように話すことの大切さ、工夫することによって、自分の表現能力の向上につながるものが仮設によって分かった。
- ・ 自分の考えを発表するために、考えを整理し、まとめるために学習カードの活用や小グループでの話し合いなどが有効だということが分かった。
- ・ 授業をすることにより、新たな課題が見つかり、研究が一步進められた。日頃の指導の大切さを感じた。
- ・ 2部会だったので、部会研究(授業案を練る)も充実できた。
- ・ 今年度は、全部の学年がとても落ち着いた雰囲気、おだやかに学習や生活に取り組んでいるように感じる。校内研をベースにした先生方の指導が、とても良い環境を作っているように感じる。来年度も、こうした学習環境を大切にしていきたい。

2 課題

- ・ 一部の子どもだけでなく、一人でも多くの子どもたちに成果を拡充してやりたい。とても良い考えや発想をもっている子どもにも、チャンスを与えられるような機会が必要かと思う。
- ・ 一人一実践については、取り組み方、研究集録の掲載については、検討してもよいかと思う。
- ・ 実践した上での成果・課題の共有が必要であったのではないか。
- ・ 課題(やらなければならないこと)にダイレクトに反映できるような研究も必要ではないか。例えば、言語活動を年間計画にどう位置づけていくか→完全移行する学習指導要領に対応、キャリア教育をどう進めるか、職教育をどう進めるかなど。

(研究主任 古屋 美知子)